

「ODA による農業支援を有機農業中心とする提言」

～～その後～～

※2010 年 7 月 2 日 ODA 政策協議会

JANARD（農業農村開発 NGO 協議会）から、ODA の使命が途上国の人々の生活向上であることは議論を待たないが、それならば、なぜ ODA における農村開発では有機農業による援助がほとんどなく、慣行農業に頼っているのか、という疑問を外務省にぶつける。慣行農業は投入が多く、貧困農民には投資能力がない。また、有機農業は生産性が低いとの一般認識の誤謬を正し、経済面からも途上国の貧困農民にもっともふさわしい有機農業をもっと積極的に ODA に取り入れることを提言。

外務省からは農業協力を慣行農業に限定しているわけではなく、有機農業を採用するに障害はないとの説明があり、JICA からは有機農業支援の例はあるものの少数であるとの説明があった。ODA の農業支援については慣行、有機に限定せず、途上国農民にもっとも求められている技術を提供しているとのことであった。ODA 関係者に有機農業知識や技術の蓄積がないため有機農業による技術協力が行われてこなかったものと思われる。

※2010 年 9 月 17 日 第 1 回 NGO=JICA 有機農業勉強会

ODA 政策協議会を受けて JICA と JANARD で話し合いを持ち、2 ヶ月に 1 回のペースで有機農業をテーマにした勉強会を開催することに決定。第 1 回として JICA 研究所で NGO、JICA、外務省関係者合わせて 50 人ほどが参加し、JICA、NGO がそれぞれ有機農業による協力事例を紹介した。また、先の ODA 政策協議会において JANARD が提示した質問事項に対して JICA より回答があった。JICA の中でも有機農業を導入した事例はあるものの、技術的にはまだ十分とは言えない。有機農業に関する限り、JICA のほうが技術的に進んでいると見受けられた。

※2010 年 10 月 3 日 パネルディスカッション「ODA における有機農業の可能性」

グローバルフェスタのワークショップとして JANARD が主催。パネリストとして JANARD メンバー団体、アドバイザー、JICA 農村部が参加し、ODA において有機農業を積極的に取り入れるには何が必要かを論じた。JICA が NGO と一緒にこのようなワークショップに参加するのは、NGO としてはたいへん心強い。今後勉強会を通してより協力関係をより強固にしていくことが大切である。

※次回 NGO=JICA 有機農業研究会は 11 月中旬に開催予定。

以上